

米子工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	基礎英語演習Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0031		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	物質工学科		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	Vision Quest English Grammar 24 (啓林館)、English Grammar 24 Workbook (啓林館)、Ultimate 総合英語 (啓林館)						
担当教員	森田 典幸,酒井 康宏,赤山 幸太郎						
到達目標							
1) 学んだ文法のルールが理解でき、問題演習などでそのルールを使える。 2) 学んだ文法の知識を生かして、英語を読んだり聞いたりできる。 3) 学んだ文法の知識を使って、英語を書いたり話したりできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
1)	問題演習で 8 割以上正答できる。		問題演習で 6 割以上正答できる。		問題演習で 6 割以下しか正答できない。		
2)	英文の内容が 8 割以上理解できる。		英文の内容が 6 割以上理解できる。		英文の内容が 6 割以下しか理解できない。		
3)	学んだ文法を 8 割以上正しく使える。		学んだ文法を 6 割以上正しく使える。		学んだ文法を正しく使える割合が 6 割以下である。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 E							
教育方法等							
概要	社会とかかわるためのコミュニケーション能力を養う科目である。中学校で習得した語彙・文法を基礎にして、さらに英語の理解と表現の幅を広げるための文法事項を学習する。「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく伸ばす基盤となる文法力を身につける。						
授業の進め方・方法	文法書とワークを使いながら授業を進める。毎授業新しい文法事項を学ぶため、その日のうちに復習をし、学習内容を定着させること。復習用の問題集があるのでそれを宿題として解き、毎時間提出すること。						
注意点	授業に関する質問は適宜受けつける。積極的な授業参加を期待する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週	ガイダンス / 不定詞 (1)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		2週	不定詞 (2)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		3週	不定詞 (3)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		4週	不定詞 (4)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		5週	動名詞 (1)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		6週	動名詞 (2)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		7週	分詞 (1)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		8週	後期中間試験までの復習 (後期中間試験)			中間試験までに習った内容を理解する。	
	4thQ	9週	分詞 (2)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		10週	分詞 (3)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		11週	関係詞 (1)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		12週	関係詞 (2)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		13週	関係詞 (3)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	
		14週	関係詞 (4)			習った文法知識を使って、演習問題が解ける。	

		15週	学年末試験	学年末試験までに習った内容を理解する。			
		16週	1年間(後期) の復習	1年間(後期)の内容を復習する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0